

N3 Vocabulary List, Sentence Patterns List

〈語彙(Vocabulary)〉

① 年度・学校関連

・年度末(ねんどまつ) = end of the fiscal/school year

今年は年度末がとても忙しかった。

→ I was very busy at the end of the school year.

・新年度(しんねんど) = new school/business year

4月から新年度が始まる。

→ The new school year starts in April.

・進級する(しんきゅうする) = move up a grade

来月、3年生に進級します。

→ I will move up to the third grade next month.

② 学校生活

・クラス替え(クラスがえ) = class reshuffle

クラス替えで友だちと別々になった。

→ I got separated from my friend due to the class change.

・担任(たんにん) = homeroom teacher

新しい担任はとても優しい。

→ My new homeroom teacher is very kind.

・時間割(じかんわり) = timetable

時間割を見て予定を確認する。

→ I check my schedule using the timetable.

③ 行動・状態

・終わらせる = to finish something

宿題を今日中に終わらせなければならない。

→ I have to finish my homework today.

・持ち帰る(もちかえる) = take something home

教科書を家に持ち帰った。

→ I took my textbook home.

・評価される(ひょうかされる) = be evaluated/appreciated

その活動は海外で高く評価されている。

→ That activity is highly appreciated overseas.

④ 気持ち・様子

・ワクワクする = excited

旅行の前はワクワクする。

→ I feel excited before a trip.

・ドキドキする = nervous / heart pounding

初日はドキドキした。

→ I was nervous on the first day.

・懐かしい(なつかしい) = nostalgic

この写真を見ると懐かしい気持ちになる。

→ This photo makes me feel nostalgic.

〈文型 (Sentence Patterns)〉

① ～ことになる(結果・決定) 意味: it turns out / it is decided that
今年がもう4分の1終わったことになります。

→ That means a quarter of the year has already passed.

② ～なきゃいけない(=なければならない) 意味: must / have to
3月中に終わらせなきゃいけない。

→ I have to finish it within March.

③ ～に対して(比較・対比) 意味: in contrast to / compared to
3月に対して、4月は新しい始まりの月です。

→ In contrast to March, April is a month of new beginnings.

④ ～ようになる(変化) 意味: come to / become able to
日本の文化が海外で注目されるようになった。

→ Japanese culture has come to attract attention overseas.

⑤ ～として(立場・役割) 意味: as / in the role of
教育の一環として掃除をする。

→ Cleaning is done as part of education.

⑥ ～ことがある(経験・時々) 意味: sometimes / have experience
海外で評価されることがある。

→ It is sometimes appreciated overseas.

⑦ ～わけだ(理由・納得) 意味: no wonder / that's why
荷物が多いわけです。

→ That's why the luggage is so heavy.

⑧ ～ながら(同時進行) 意味:while doing
ドキドキしながら学校に行った。

→ I went to school while feeling nervous.

⑨ ～とき(時間) 意味:when
給食のときに使う。

→ It is used during lunchtime.

⑩ ～てしまう(完了・残念) 意味:end up / completely
3月が終わってしまいました。
→ March has already ended.

〈スクリプト〉

◆ オープニング :番組紹介 & BGM(1分)

□ 番組紹介 & ゲスト紹介

M: こんにちは、みなさん！！お元気ですか。

「Cotoラジオ」、本日も始めました！！

パーソナリティの私(わたくし)金城と、及川先生でお届けしてまいります。

及川先生、よろしくお願いいたします。

A: はい、どうぞよろしくお願いいたします。

♪〈なぜなにシリーズ開始の音楽〉←「季節の日本語」シリーズなので音楽を変える？

・コーナー1:本日のテーマ&スモールトーク(●分)

M: いやー、あっという間に3月が終わってしまいましたね。早いもので4月になりました。これで今年がもう4分の一、終わってしまったことになります。何だか信じられません。

A: 本当ですね。3月は日本では「年度末」と言って、ビジネスイヤーやスクールイヤーの終わりの月で、3月中に終わらせなきゃいけないことや行事が色々ありますから、他の月より時間の流れを早く感じますよね。私は先月は本当に忙しかったです。

M: そうですね。多くの会社では3月に人事異動(じんじいどう)、学校では修了式(しゅうりょうしき)(学年の終わりのセレモニー)や卒業式(Graduation Ceremony)がありますから、大人も子ども、忙しくなる人が多いですね。

A: ええ。ところで、日本では3月の年度末に対して、4月は「新年度(しんねんど)」と言ってビジネスイヤーやスクールイヤーの始まりの月ですね。

M: そうですね。4月は会社や学校では新しい始まりの月。忙しい反面、新たな出会いや経験にワクワクする月でもありますよね。

A: はい。学生時代、私は毎年4月が楽しみでした。私の学校では毎年「クラス替え」がありましたから、今年はどんな先生かな、どんなクラスメートかな...と、ワクワクしながら学校に行きました。

M: そうだったんですか。私は逆に緊張しましたよ。新しい先生は怖くないかな、新しいクラスメートと仲良くなれるかな...と、ドキドキしながら学校に行きました。

...という事で本日のテーマは...

M:「季節の日本語—日本の学校」です。

♪ <効果音>

・コーナー2:『日本の学校』って？(●分)

M: さて、先ほどのイントロで出てきた「新年度」という言葉、これは会社でも学校でも使える言い方ですが、学校にだけ使う言い方があるんです。

A: はい。それは、「新学年(しんがくねん)」や「進級(しんきゅう)」(New grade)です。Verbは「新学年になる」「進級する」です。

M: 今日はこの新学年・進級の時や、日本の学校で使うことばを紹介したいと思います。

A: まずは「クラス替え」、これはクラスの先生とクラスメートが変わることを言います。日本の学校では小学校は2年に一回、中学校、高校は毎年クラス替えがあります。担任の教師(クラスティーチャー)も変わるので、これは子どもたちにとってはとても大きな出来事です。

本当かどうか分かりませんが、仲がよい友だちとは別々のクラスになる、と言われています。

M: あー、そうですね。そういう噂(うわさ)、昔からありますよねー。もしこれが本当なら、「色々な子と知り合って仲良くなって欲しい」、「誰とでも上手に付き合っていける子になって欲しい」、という先生の願いが込められているんでしょうね。

A: そうかもしれませんね。「ドキドキ」だったり「ワクワク」だったり、感じ方は人それぞれですが、いずれにしても初日(しょにち)(初めの日)は新しいクラスの先生やクラスメートが誰になるか、とても気になって、誰でも緊張しますよね。

M: ええ。そして教室(クラスルーム)に入ると、先生からもらうのが「時間割(じかんわり)」(クラススケジュール)です。

A: はい。新しい時間割、私は毎年とても気になりました。自分の好きな科目があるのは何曜日だろう、あまり好きじゃない科目がある日は何曜日だろう、これらをチェックして何曜日が一番楽しい日かを考えていました。

M: 時間割、大事ですよー。僕は体育(たいいく)(P.E.)と図工(ずこう)(arts and crafts)が何曜日かをチェックしていましたよ。

A: とっても金城先生らしいです！

じゃあ、次は日本の学校で使うグッズを色々紹介していきましょう！

M: いいですね！ではまず初日に必ず持って行くものーそれは「ぞうきん」です。英語では「cleaning cloth」。日本ではランチタイムのあと、子どもたちが自分の教室や学校の中を掃除する時間があるんです。そのときに使うのがこの「ぞうきん」で、水飲み場(water fountain)で自分のぞうきを濡らして絞って、机や床を拭き掃除します。

A: わあ、懐かしいです！小学校のとき、教室の机と椅子を全部うしろに寄せて、みんなで一列になって「よーいドン！」(“Ready, set, go!”)で拭いたことを思い出しました。

M: やりましたよねー。私たちには当たり前の「そうじ」の時間ですが、最近は海外でとても良い習慣として評価されることがあるそうですよ。

A: あ！私それ、テレビのニュースで見たことがあります！「みんなで力を合わせて一つのことをすること」、「自分のしなければいけないことを最後まですること」、「コミュニティの活動に参加すること」を育てる時間として注目されているんですよ。日本の教育文化を描いたドキュメンタリー映画が、海外で上映・受賞されたことがきっかけで注目されるようになった、と言っていました。外国の政府教育担当(government education official)の人や、海外の先生たちが日本の小学校を見に来ることもあるそうですよ。

M: そうなんですか。それは驚きました。でもそんな風に評価されているのは嬉しいです。では次は、日本の学校で使うものを紹介しましょう。及川先生、お願いします！

A: はい。それでは、日本の小学校で使う、一人(ひとり)一つ(ひとつ)必ず持っている物

を紹介します。

それは、体操服、給食セット、お道具箱、絵の具セット、お習字セット、お裁縫セット、リコーダーです。

M: まずは「体操服(たいそうふく)」。これは他にも「体操(たいそう)着(ぎ)」とか「体育(たいいく)着(ぎ)」と言われることがありますが、どれも意味は同じで、運動するための服のことです。これは半袖のトップスとハーフパンツと帽子がセットで、帽子は赤と白のリバーシブルになっていて、チーム分けするときなどに役立ちます。

A: 半袖のトップスの胸には「校(こう)章(しょう)」(スクールエンブレム)がプリントされていることが多いですね。次は「給食(きゅうしょく)袋(ぶくろ)」。これは「給食」(スクールランチ)の時に使う、ランチョンマット、ミニタオル、マスクを入れておくことが多いです。

日本では、交代で子どもたちがクラスの「給食(きゅうしょく)当番(とうばん)」(lunch helper)をします。その時に着る「白衣(はくい)」と「帽子」は学校が貸してくれて、その週が終わると家で洗濯し、次の週の給食当番がそれを着ます。

M: あー、給食と言えば、いま思い出しました。僕は仲良しの友だちが給食当番の時は、「ちょっと多めに！」と頼んで「大盛り(おおもり)」にしてもらっていましたよ。逆に、僕が給食当番の時は「大盛り」にしてあげていました。懐かしい思い出です。

A: いい思い出ですね！そして次は「お道具箱(おどうぐばこ)」。これは、はさみ(シザーズ)、のり(グルー)、30センチ定規(ルーラー)、色鉛筆、クレヨンなどを入れて、教室の後ろのロッカーに置いておきます。授業で必要な時、箱ごと出して使います。

M: ありましたねー、「お道具箱」。僕はこれ、なぜかいつも箱の中がカオスになってしまってたんですよ。点の悪かったテストをここに入れてお母さんに見せなかったり、配られた「おたより」(スクールレター)をこの中に入れて家に持ち帰らなかったりして、よく叱られました。

A: 私のクラスの男の子もそんな感じでしたよ！他には「絵の具(えのぐ)」(ペイント)セット、「お習字(おしゅうじ)」(カリグラフィー)セット、「お裁縫(おさいほう)」(ソーイング)セット、「リコーダー」なども一人一人持っていて、教室の自分のロッカーに入れておき、授業で必要なときに出して使い、使い終わったらきれいに片付けます。

M: いやあ、こうやって順番に言ってみると、とてもたくさんありますね！こんなにたくさんのものを学期(がっき)(セメスター)ごとに家に持って帰ったり、学校に持って来たりしなければならなかった訳(わけ)ですから、大荷物(おおにもつ)で大変ですよーねー。

A: そうですね。私は体が小さくて一度にたくさん持てませんでしたから、計画的に家に持ち帰っていましたが、隣の席の男の子はいつも学期の最後の日に両手にもランドセルにも引っ掛けて大荷物で帰っていましたよ。まるで荷物が歩いているみたいでした。

M: ドキッ！それは正(まさ)しく、僕のことですよ、及川先生…。最終日はこれらの荷物に加えて自分が作った作品(Work)もあって、ヨロヨロになりながら、いつもの倍ぐらいの時間をかけて家に帰っていましたよ…。

A: それは、大変でしたね。(笑いながら)でもごめんなさい。想像するだけでも笑ってしまいます…。

■エンディングトーク：出演の感謝 & 締め言葉(1分)

M: それでは、今日のテーマ「季節の日本語—日本の学校」は以上となります。

皆さん、いかがでしたでしょうか。及川先生は、どうでしたか。

A: はい。昔のことを思い出しながら「日本の学校」について皆さんにお話しできて、とても楽しかったです。

M: そうですね。これを聞いているリスナーの皆さんに、普段なかなか知ることのない「日本の小学校生活」を紹介できてよかったですね。そして僕も色々昔を思い出

て、とても懐かしい気持ちになりました。

A: ええ。これをきっかけに日本の学校について興味を持ってもらえたら嬉しいです。

M: そうですね！

このラジオ番組では去年、毎月「季節の日本語」をご紹介してきましたが、今年も毎月、日本の季節行事 (Seasonal events) について紹介したいと思います。

これを聞いて、皆さんがもっと日本のことを知って、もっと日本のことを好きになってくれたらいいな、と思っています。これからもどうぞお楽しみに！

最後まで聞いていただき、ありがとうございました！ 及川先生もありがとうございました。

A: 私からも、ありがとうございました！これからも聞いてくださいね！